

いま、日本語がブーム!

重新认识日语的优美和趣味性

歌舞伎、浪曲、詩、古文、漢詩、落語、早口言葉などの日本語の名文・名文句を集めた暗誦のテキスト『声に出して読みたい日本語』は、150万部を超える売上で、2002年のベストセラーとなった。この本の著者である齊藤孝氏が監修を務めている、小学校低学年を対象としたテレビ番組「にほんごであそぼ」も子供たちの間で人気があり、落語「寿限無」や狂言「ややくしや」の暗誦が流行している。

『声に出して読みたい日本語』がきっかけの一つとなり、いま改めて、日本人の間で、日本語の美しさや楽しさが見直されるようとしている。書店では、日本語コーナーが設けられ、日本語をテーマにした本が多く並んでいる。その中には、正しい日本語は何かを問うような本も多くある。この背景には、若い人の中で新しい言葉や表現が生まれたり、間違った日本語が広まったりしているという状況に対して、日本語の乱れを指摘する声が上がっていることがある。

齊藤氏は、歴史の中で鍛え抜かれ滋養にみちた言葉を暗誦・朗誦することは、身体に活力を与え、それが心の力につながると説き、教育現場で心と体を養う暗誦や朗誦にもっと力を入れるべきだと語る。

今号は、日本人にとってなじみ深く、現代に息づいている伝統的な詩句や芸能を紹介する。

漢文

中国で生まれた『論語』や詩などは、日本でも古くから広く知られています。中国の古典の文章を「漢文」といいます。「漢文訓読」という方法を用いて、文法の違いを「漢文」を日本語として読みます。①②の漢詩と①'②'の訓読で読んだものを比べてみましょう。漢詩は日本でも盛んに作られ、751年には、最初の漢詩集『懐風藻』が作られました。その後も漢詩は栄え、文学の中で高く評価されるとともに、知識層の間で必須の素養とされてきました。また、明治時代まで、公文書なども漢文訓読体で書かれていました。今でも、高校の授業では、「漢文」の授業があり、漢詩や論語などが読まれています。「漢文」の授業を受けたことがきっかけとなって、中国語の勉強を始める生徒もいるようです。

その後、和文と漢文的な文章が混ざり合った和漢混交文が現れました。和漢混交文で書かれたものとして有名なものには、『平家物語』『方丈記』『徒然草』があります。③『平家物語』は、平安時代に栄華を極めた平家の盛衰を描いた軍記物語で、1200年ごろに書かれました。『方丈記』と『徒然草』は随筆で、前者は1230年ごろ鴨長明によって、後者は1330年ごろ、吉田兼好によって書かれました。

①
少年易老学難成
一寸光陰不可輕
未覺池塘春草夢
階前梧葉已秋聲

①'
少年老い易く学成り難し
一寸の光陰軽んずべからず
未だ覚めず池塘春草の夢
階前の梧葉已に秋聲

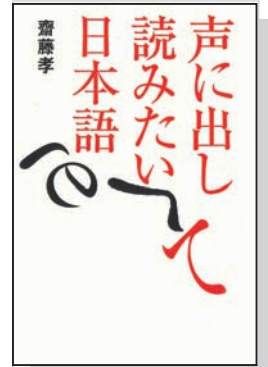
②
子曰、學而時習之、不亦說乎、
有朋自遠方來、不亦樂乎、
人不知亦不慍、不亦君子乎

②'
子曰わく、
学びて時に之を習う、亦た説はしからずや。
朋あり、遠方より來たる、亦た樂しからずや。
人知らずして慍らず、亦た君子ならずや。

③
祇園精舎の鐘の聲、
諸行無常の響きあり。
沙羅双樹の花の色、
盛者必衰の理をあらわす。
驕れる人も久しからず、
唯春の夜の夢の如し。
猛き者も遂には滅びぬ、
偏に風の前の塵に同じ。



『ひだまり』では毎号、主に日本の若者の生活や日本の現代事情を写真と文章で解説した「今日日本」を掲載します。また、「今日日本」を使った授業案も「教学設計」で紹介しています。生徒たちの日本への理解を深めるために、「今日日本」を教室に張るなど、ご活用ください。



『声に出して読みたい日本語』（草思社 / ISBN:4794210493 / 2001年9月発行）

注：訓読とは、返り点を用いて読む読み方です。返り点には、主なものに、レ点、一・二点、上下点などがあります。返り点は読む順番を表します。例えば、レ点は下の文字を先に読み、一・二点は、一が書かれている漢字をまず読み、次に二が書かれている漢字を読みます。

①朱子 ②孔子『論語』より ③『平家物語』より 参考：『国語総合』（東京書籍）

短歌

「短歌」とは、五・七・五・七・七の五句三十一音からなる叙情詩です。特に決められたルールはなく、歌に詠むテーマも制約はありません。恋や日常生活のこと、子どもの成長などさまざまなテーマが詠まれています。短歌は、7世紀の半ばころにでき、780年ごろに、日本最古の歌集『万葉集』が編集されました。905年に『古今集』が編纂され、短歌は漢詩と同等の地位を築きました。

鎌倉時代(1192-1333年)に、京都の小倉山に住んでいた歌人の藤原定家が、『古今集』や『新古今和歌集』などの歌集から100人の歌一首ずつ選び、『小倉百人一首』を編纂しました。100首のうち、半分近くが恋の歌です。江戸時代以降、カルタとして主にお正月に遊ばれるようになりました。カルタは、3人以上で遊ぶゲームで、読み手を1人決めます。短歌上の句(五・七・五)と下の句(七・七)を分けてカードに書きます。下の句だけ書いた100枚のカードをばらばらに広げます。読み手は上の句を読み、読み手以外の人は、それに続く下の句のカードをいち早く見つけて取ります。カードを多く取った人の勝ちとなります。

東洋大学では、「現代学生百人一首」を毎年開催し、現代の学生のものを見方・生活感覚をテーマに短歌を募集しています。第18回の同コンテストには、63,330首の応募がありました。日本の多くの大学では、広報をかねて様々なコンテストを開催しています。

俳句

「俳句」は、五七五の三句の定型から成り、季語を含むことを約束とする日本独自の短詩型文芸で、世界で一番短い詩です。もともとは、連歌からできた詩です。連歌とは、短歌の五・七・五の上の句(長句)と七・七の下の句(短句)とを交互に数人で詠み合うものです。『万葉集』に収録されている連歌が最も古いものだとされています。江戸時代半ばからは、連歌にユーモアや風刺を取り入れたものが盛んになり、口語が用いられたこともあり、庶民の間で人気を集めました。この時代に、松尾芭蕉が、連歌の上の句だけを独立させて、「俳諧の句」としてその形式を確立させました。その後、明治時代に、正岡子規が「俳句」という名前を付けました。

俳句では、季語を一つだけ入れなければなりません。季語とは、誰もがその言葉を聞くと、その季節の情景を心に描ける言葉です。季語を集めたものを『歳時記』といい、書店で手に入ります。季節は旧暦で、春(3~5月)、夏(6~8月)、秋(9~11月)、冬(12~2月)に分けられています。また、俳句では、少ない字数で作者の気持ちを表現するために、いろいろな技法が用いられます。切れ字(「かな」「けり」「や」など)を句末に用いて意味を区切ったり、体言止めを用いて動詞や助詞を省略したりします。

最近、このような俳句のルールに縛られない自由な形式のものも多く作られています。例えば、総合飲料メーカーの伊藤園では「お〜いお茶新俳句大賞」を開催していますが、このコンテストでは、「新俳句」と称して、季語がなくても、多少字余り(五・七・五よりも文字が多くなること)でも良しとし、誰でも応募しやすいよう配慮されています。今年で第16回の同コンテストでは、3,000句の入賞作品を選び、「お〜いお茶」の飲料パッケージに掲載し発表しています。

川柳

「川柳」は、江戸中期頃から流行した短詩です。俳句と同じく、五・七・五調ですが、季語や切れ字などの制約がなく、口語を用います。人生の機微や世相・風俗をこっけいに、また風刺的に描写するのが特色です。

保険会社の第一生命では、毎年「サラリーマン川柳コンクール」を開催し、優秀作品を100句選んでいます。テーマは、会社や家庭での様々な出来事などで、鋭く世相を表現している句が多い。第18回の同コンクールには、21,878句の応募がありました。

“第一生命サラリーマン川柳” URL ⇨ <http://www.dai-ichi-life.co.jp/>

東洋大学第18回「現代学生百人一首」入賞作品

悩んでも立ち止まったりはもうしない
ゆつくり ゆつくり 歩いて悩む
縦然苦悩 亦不再停歩 慢慢迈向前方路
長崎県 山下朋也 17歳

秋風が君と私の帰りみち
手と手をつなぐ理由をくれた
你我归途手牵手 秋風是理由
香川県 日比さくら 18歳

抗争と和解が地図を分割し
赤ペンで染まる世界史年表
抗争与和解 地图被分割 赤墨浸染世界史年表
岡山県 藤澤恭行 16歳

左側3首は伊藤園「第15回お〜いお茶新俳句大賞」入賞作品

古池や 蛙飛び込む 水の音
蛙人古池塘 唯有水声响
松尾芭蕉

柿食えば 鐘が鳴るなり 法隆寺
身在法隆寺 啖柿听钟鸣
正岡子規

太陽の 光めがけて 逆上り
迎着阳光 卷身上杠
大阪府 古家葉月 16歳

天高し 思わず靴を 投げてみる
碧空晴万里 投履试天高
愛知県 平岩麻美 15歳

カマキリは カンフー上手で ポーズ決め
螳螂功夫强 姿勢摆得棒
福島県 大竹淳平 11歳

第一生命「第18回サラリーマン川柳コンクール」入賞作品

妻の声 昔ときめき 今動悸
闻妻声 昔日激动 今日悸动
紙風船(第17回)

「前向きで」駐車場にも 励まされ
停车场也在鼓励我 “要朝前!”
プラス思考(第17回)

入歯見て 目ははずしてと せがむ孫
孙儿见我卸假牙, 求我再把眼睛摘
ハッセル爺さん(第11回)



